

母性看護学

- 1 母性看護学の考え方
- 2 母性看護学目的・目標
- 3 母性看護学の構成
- 4 母性看護学学習内容

1 母性看護学の考え方

母性看護学は、女性の一生を通して健康の維持、増進、疾病の予防に関わる領域である。女性のライフサイクルのなかで、次代を担う種族保存の営みに関わると考える。

少子傾向にあるなかで「子を産み、育てる」ことの価値観は変化してきており生命誕生に関わる倫理観も多様であり、母性としての役割、父性としての役割の考え方は時代と共に変化してきている。そして、女性の労働人口が増加しつつあり、女性としての機能を健全に果たす上でも妊娠・分娩・産褥・育児に関する法律や制度のしくみについて理解する。

母性の機能と深い関係がある「人間の性と生殖」については、人間の発達とともに特に思春期と性行動に関連付けて学ぶ。

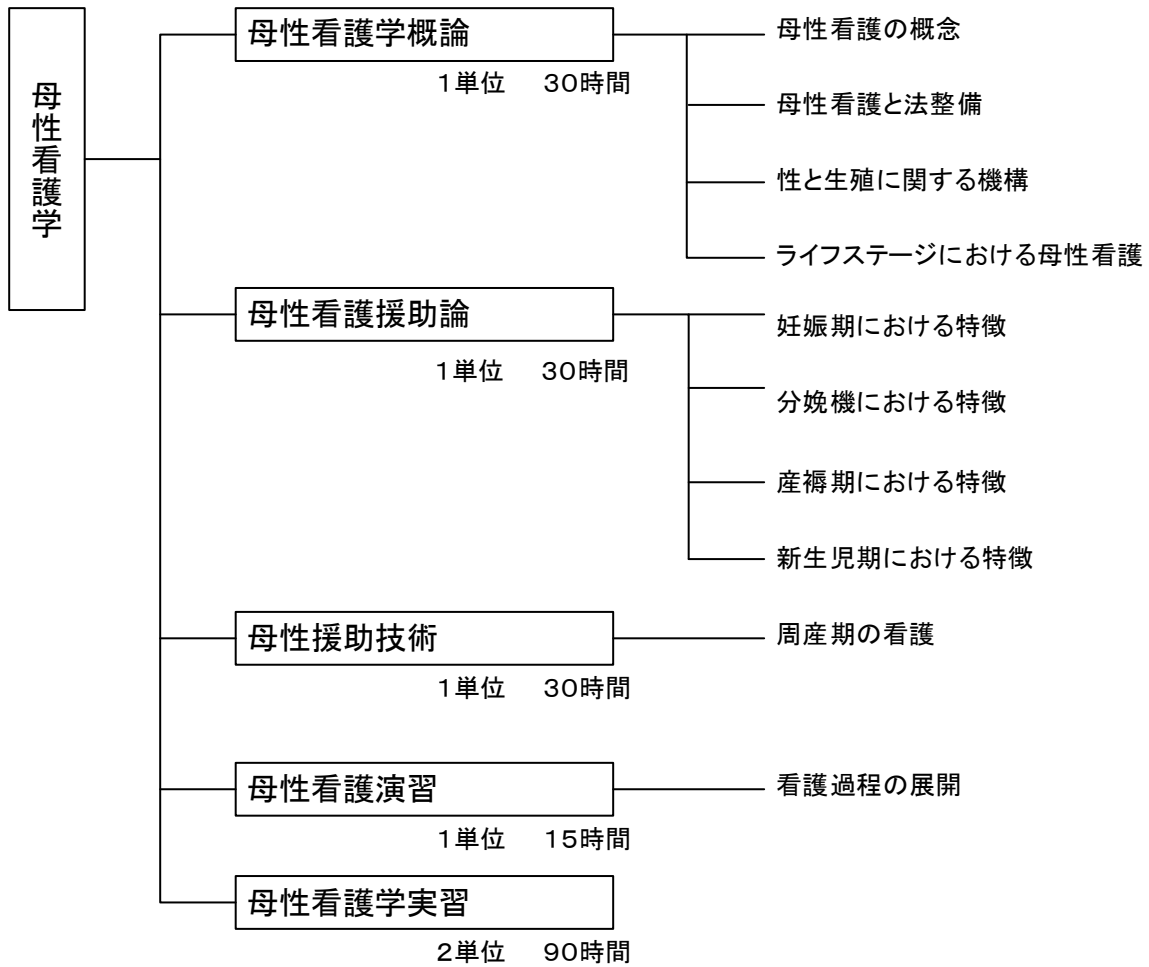
学習者自身も次世代を担う「種族保存」の対象者であり女性の身体的・精神的役割を認識し、健康を守り疾病の回復・予防に必要な看護を学ぶ。

2 母性看護学目的・目標

目的 人間のもつ種族保存の働き（生殖）とその意義を把握するとともに、女性の一生を通して、母性の特徴を理解し、対象に適した看護を実践するための基礎的知識、技術、態度を習得する。

- 目標
- 1 生命の誕生を通し、種族保存の意義、「生命尊重」「生命倫理」について考える。
 - 2 母性を取り巻く社会状況の変化を知り、現代社会における母性の概念を理解する。
 - 3 母性看護の変遷・動向を理解し、母性看護の役割・機能及び今後のあり方について理解する。
 - 4 母性各期にある対象の特徴と保健上の課題を理解し、健康教育について理解する。
 - 5 人間の性と生殖については、思春期の性行動と関連して社会問題やセクシュアリティを考える。
 - 6 周産期にある妊娠、分娩、産褥の一連の過程から新生児に至るまでの正常な経過と異常について学ぶことができ母子および家族に対し、適切な看護を行なうための知識、技術を習得する。
 - 7 自己の母性・父性を認識し、健康な生活が実践できる能力を養う。
 - 8 周産期における対象の看護過程の展開ができる。

3 母性看護学の構成



4 母性看護学学習内容

科目名	母性看護概論	単位数	1 単位	30 時間
科目区分名	母性看護学			
開講期	1 年次 後期			
教員名	高橋 千賀子			

授業概要：少子傾向の定着、女性のめまぐるしい社会進出などの社会情勢の変化により子を生き育てることの価値観が多様化している現実を理解し、その過程における健康の維持増進を図るとともに女性の権利としてのリプロダクティブヘルス／ライツの概念を学ぶ。さらに女性および家族のライフサイクルや健康な生殖過程を学ぶ。また、生殖技術の進歩による生命倫理の新たな構築の視点を学ぶ。

到達目標：1 生命の誕生を通し、種族保存の意義、「生命尊重」「生命倫理」について考える。
2 母性を取り巻く社会状況の変化を知り、現代社会における母性の概念を理解する。
3 母性看護の変遷・動向を理解し、母性看護の役割および今後のあり方について理解する。

授業計画

回数	授業内容	授業方法
1	母性看護の概念 リプロダクティブヘルス／ライツと母性看護	講義
2	性の生物学的側面 性周期と生殖器のメカニズム	講義
3	性の文化・社会的側面	講義
4	性の健康と援助	講義
5	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状	講義
6	母性と社会 少子化 女性への暴力	講義
7	母性保健と社会資源 母子保健の目的 母子保健の現状	講義
8	母性の在宅看護 地域に密着した助産院の役割	講義
9	母性と倫理的問題 生殖医療 人工妊娠中絶 出生前診断	講義
10	生殖をめぐる倫理 1) 演習「代理出産	講義
11	生殖をめぐる倫理 2) 演習「人工妊娠中絶」	講義
12	女性・家族のライフサイクルの理解	講義
13	グループワーク	演習
14	グループワーク	演習
15	まとめ 筆記試験	

評価方法 筆記試験 100 点

テキスト 母性看護学 [1] 母性看護学概論 (医学書院)

参考書

科目名 母性看護援助論 単位数 1 単位 30 時間
 科目区分名 母性看護学
 開講期 2 年次 前期
 教員名 畑崎 紀子

授業概要： 1 周産期における母性と新生児の健康の保持・増進をするための基礎的理論と方法を学ぶ。
 2 異常の早期発見に努め早期治療に向けて円滑、さらに適切な看護が提供できる方法を学ぶ。

到達目標： 1 妊娠・分娩・産褥各期の生理および看護を理解する。
 2 妊娠・分娩・産褥各期における異常時の看護を理解する。
 3 新生児の生理を理解し胎外生活の適応への援助の必要性を知る。

授業計画

回数	授業内容	授業方法
1	妊婦の看護（身体的・心理的・社会的特性）	講義
2	妊婦の看護（妊婦と胎児のアセスメント）	講義
3	ハイリスク妊婦の看護（妊娠高血圧症候群）	講義
4	ハイリスク妊婦の看護（妊娠糖尿病・糖尿病合併妊婦の看護）	講義
5	ハイリスク妊婦の看護（常位胎盤早期剥離・前置胎盤・切迫早産・双胎）	講義
6	産婦の看護（分娩要素）	講義
7	産婦の看護（分娩の経過）	講義
8	産婦の看護（分娩期の看護）	講義
9	ハイリスク産婦の看護（前期破水・胎児機能不全・弛緩出血）	講義
10	ハイリスク産婦の看護（帝王切開術）	講義
11	褥婦の看護（身体的・心理的・社会的変化）	講義
12	ハイリスク褥婦の看護（子宮復古不全・感染症・産後うつ病）	講義
13	新生児期の看護	講義
14	ハイリスク新生児の看護	講義
15	まとめ 筆記試験（50分）	講義

評価方法 筆記試験 100 点

テキスト 母性看護学 [2] 母性看護学各論（医学書院）

科目名 母性援助技術 単位数 1 単位 30 時間
 科目区分名 母性看護学
 開講期 2 年次 前期
 教員名 畑崎 紀子

授業概要：周産期の母子を看護する際に、母性看護援助論で学習した身体的・心理的・社会的側面からの関連性をもとに健康の維持増進、また、新生児を家族の一員として迎え、親として適切に世話することができるように援助する方法を学ぶ。

- 到達目標：1 周産期にある妊娠、分娩、産褥の一連の過程から新生児に至るまでの健康な経過をたどる妊産褥婦と新生児の援助について学ぶことができる。
- 2 正常な経過から逸脱し異常な状態にある母子に対し適切な看護を行なうための知識、技術を習得する。
- 3 母性看護援助論で学んだ基礎的理論と方法を統合させ看護を実践する意味が理解できる。

授業計画

回数	授業内容	授業方法
1	妊婦に必要な看護技術（妊婦体験・腹囲子宮底測定・レオポルト触診法・胎児心音聴取）	演習
2	新生児の看護技術（出生直後から1か月健診まで）	講義
3	新生児の看護技術（新生児の抱っこ・おむつ交換・バイタルサイン測定・体重測定・沐浴）	演習
4	新生児の看護技術（新生児の抱っこ・おむつ交換・バイタルサイン測定・体重測定・沐浴）	演習
5	ハイリスク新生児の看護技術	講義
6	分娩期のロールプレイGW	講義
7	分娩期のロールプレイGW	演習
8	分娩期のロールプレイ発表	演習
9	母子分離時の看護	講義
10	産褥期のロールプレイ（GW）	講義
11	産褥期のロールプレイ（GW）	演習
12	産褥期のロールプレイ（発表）	演習
13	産褥期のロールプレイ（発表）	演習
14	沐浴技術チェック	演習
15	まとめ 筆記試験（50分）	講義

評価方法 筆記試験 80 点 GW・演習態度・内容 20 点

テキスト 母性看護学 [2] 母性看護学各論（医学書院）

科目名 母性看護演習 単位数 1 単位 15 時間
 科目区分名 母性看護学
 開講期 2 年次 前期
 教員名 畑崎 紀子

授業概要：具体的事例について、既習の知識を統合して看護過程展開能力を強化する。ペーパーシミュレーションについてアセスメント・看護診断・計画立案の過程を演習する。

到達目標：周産期における対象とその家族への看護過程を展開する。

問題志向型とウェルネス志向型の看護診断の違いが理解できる。

授業計画

回数	授業内容		授業方法
1	看護過程の演習	母性看護における看護過程 ウェルネス看護診断について	講義
2	看護過程の演習	正常産婦の事例展開(ケースAさん アセスメントから看護介入まで)	講義
3	看護過程の演習	正常産婦の事例展開(ケースAさん アセスメントから看護介入まで)	講義
4	看護過程の演習	褥婦の事例展開 (ケースAさん アセスメントから看護介入まで)	講義
5	看護過程の演習	褥婦の事例展開 (ケースAさん アセスメントから看護介入まで)	演習
6	看護過程の演習	新生児の事例展開 (ケースAさんの新生児 アセスメントから看護介入まで)	講義
7	看護過程の演習	新生児の事例展開 (ケースAさんの新生児 アセスメントから看護介入まで)	講義
8	まとめ		講義

評価方法 筆記試験 50 点 演習の記録内容 50 点

テキスト 母性看護学 [2] 母性看護学各論 (医学書院)

母性看護学実習

目 的

母子をめぐる生活環境を理解し、次世代が健康に生まれ育つために必要な看護が実践できる能力を習得する。

目 標

- 1 妊産褥婦および新生児の身体的・心理的・社会的側面の特性と変化が理解できる。
- 2 正常に経過している妊産褥婦および新生児に対する看護が理解できる。
- 3 母性各期と新生児期に必要な援助技術を安全に実施できる。
- 4 子どもをより健康な状態で産み育てるための支援が理解できる。
- 5 母性看護における継続看護の必要性と看護の役割が理解できる。
- 6 自己の母性観・父性観を明確にし、生命の尊厳に対する思いを深める。